CASE 10

とび

技能をマイスターに学ぶ

若手育成のために、職人が一致団結。業界全体で、鳶職を盛り上げていく。

宮崎県内のとび技能士1級・2級を保持する鳶職人が所属する団体が、宮崎県鳶技能士会です。会長の松浦秀次氏は、鳶や足場工事の技能向上、人材育成に力を入れています。日頃から、若手の育成に熱心に取り組む宮崎県鳶技能士会が、ものづくりマイスター制度を導入した狙い、その効果をお聞きしました。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 宮崎県鳶技能士会

所在地　宮崎県宮崎市跡江850-2（本部）
活動内容　とび技能士の育成、とび技能の広報活動
会員企業数　15社
設立年　昭和52年

テーマ

技能の面白さを伝え、主体性を育む。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

これからは、業界全体で力を合わせて次の世代を育てる時代。

今回お願いした一番の理由は、技能を極めていく面白さを若手職人に伝えて欲しかったから。一方的に「やらされる」のではなく、自分から技能を高めたい、と思ってもらうのが理想。ものづくりマイスターの指導が、そのきっかけになったら、と考えました。今回、吉村マイスターに指導してもらったことで、技能のレベルがあがったのはもちろん、若手の仕事への意気込みが変わりました。さらに、会社の垣根を越えて、職人同士の交流も生まれています。吉村マイスターとは、商売上は競合相手。お互い切磋琢磨しながら、人手が足りないときは、応援に駆けつける。そんないい関係を日頃から築かせてもらっています。これからは、みんなで協力しあって若手を育てていく時代。地元に残る若者も減り、技能の担い手は、どんどん少なくなっていく。だからこそ、ものづくりマイスター制度を活用しながら、業界全体を盛り上げていくことができたら理想的ですね。

宮崎県鳶技能士会
会長 松浦秀次さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：20回　受講者数：2名
実施場所：有限会社松浦組 本社内

プログラム内容

1回目	高床組立1	11回目	高床組立～小屋組立2
2回目	高床組立2	12回目	高床組立～解体1
3回目	桟橋組立	13回目	高床組立～解体2
4回目	小屋組立～解体1	14回目	高床組立～解体3
5回目	小屋組立～解体2	15回目	高床組立～解体4
6回目	高床組立～桟橋組立1	16回目	高床組立～解体5
7回目	高床組立～桟橋組立2	17回目	高床組立～解体6
8回目	高床組立～桟橋組立3	18回目	高床組立～解体7
9回目	高床組立～桟橋組立4	19回目	高床組立～解体8
10回目	高床組立～小屋組立1	20回目	高床組立～解体9

教育プログラムの解説

職人の勘所を掴むためには、基本が重要。基礎から徹底的に技能を覚えるためのプログラムを実施。あらゆる種類の組み方を網羅し、反復練習ができる内容にしました。さらに、一つひとつの作業を、マイスターがその場でチェックしながら、マンツーマンで指導。スピードと安全性の向上を重視し、これまで1時間かかっていた作業を45分、45分かかっていた作業を30分で、なおかつ安全にできるように訓練を行いました。

テーマ

技能の面白さを伝え、主体性を育む。

座談会 INTERVIEW

ものづくりマイスター × 若手技能者

「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマイスター（写真_左）

吉村 亮さん

昭和49年生まれ
平成13年度 1級技能士「とび（とび作業）」取得
平成26年度 厚生労働省 ものづくりマイスター「とび」認定

社会人になると同時に、鳶の世界へ。技能を次世代に伝えるために、ものづくりマイスターを志す。松浦組の代表、松浦氏とは同時期に鳶の仕事を始めた、20年来の仲。公私ともに交流がある。有限会社吉村工業の代表取締役社長。

×

受講した若手技能者（写真_右）

後藤 恵太さん ｜ 平成25年入社

高校卒業と同時に、松浦組へ。入社5年目の現在は、新人の指導にもあたっている。技能検定1級を取得するのが現在の目標。

垣根を超えて、技能を教えあうことで、職人の世界に新たな変化をもたらす。

意識が、変わった。目つきも、変わった。

吉村さん　今回重視したのは、一つひとつの作業にかける時間。作業スピードは、職人として当然、意識しないといけないところだと思うんですよ。一つずつ突き詰めていって、これができたら次、これができたら次と、全部で20回、指導を繰り返しました。長丁場だったから、モチベーションの維持も大変だったかもしれないけれど。楽しくできたんじゃないかと思います。

後藤さん　回を重ねるごとに、できることが増えていくのが、楽しかったです。早くきれいに組むためには、一つひとつの作業のスピード、作業の順序がいかに重要か、分かりました。

吉村さん　やりながら、覚えるしかないんですよね。図面と見比べて、形はあってるか、突きつけはあっているか、1個ずつ間違い探しをやるような感覚。見た目は正直変わらないんですよ。素人の方には分からないくらいの細かいところを、突き詰めていく作業ですから。

後藤さん　指導を受けて変わったのは、時間に対する意識ですね。自然と体がテキパキ動くようになったような気がします。

吉村さん　最後の頃には、目に自信がみなぎっていたもんね。後藤くん、明らかに顔つきが変わったよ。

図面にはのらない、空白を読み解いていく。

後藤さん　課題として渡された図面を最初に見たときは、お手上げ状態。「どうすればいいんだろう？」というのが、正直な印象でした。寸法はのっていても、クランプをどの位置に、どうつけるか、細かいところまでは図面にのっていないので。その辺は、その都度自分で考えないといけない。指導を受けながら、何度も繰り返し練習しました。図面で見るのと、組むのとでは、全然違いますね。

吉村さん　実際の仕事でも、図面と現場の状況が、全く違うこともよくあるからね。もっというと、僕がこの仕事を始めた20年くらい前は、CADがなかったから、図面すらなかった。材料だけが用意されていて、あとは職人に任されていたんです。図面があるだけでも、実はありがたいんですよ。この仕事は、時代の変化とともに、法改正の影響も受けるし、使う材料も変わっていく。常に勉強し続けないといけない仕事だと思います。

「技能は人に教えるな」から教え合い、助け合う時代へ。

吉村さん　自社の社員に対しても、毎日指導ができるかといったら、なかなかできない。ミスが許されない時代ですから、現場で教えるのって、難しいんですよね。昔は元請けさんが、若手の成長のためだとわかってくれて、少しくらいの失敗は大目に見てくれたんですが、今はそうじゃない。だからこそ、ものづくりマイスター制度は、とても意義があると思います。

後藤さん　マンツーマンで教えてもらう機会はなかなかないので、いい勉強になりました。

吉村さん　かつて鳶の世界には、「技能は人に教えるな」といった風潮がありました。僕たちの世代は、マイスター制度もなかったですし、ちゃんと教わった記憶がないんですよ。だから、僕の教え方は、かなり自己流。伝え方には、非常に気を使いました。いくら指導したとしても、きちんと身にならなければ意味がない。そういう意味では、今回の指導を通して教え方を勉強させてもらった気がしますね。

後藤さん　自分が現場を率いて、後輩にアドバイスをすることもあるので、吉村マイスターに教えてもらったことを、下の代にも伝えていけたらと思います。

吉村さん　これからの時代は、技能をお互いに教えあって、助け合っていかないといけない。職人の世界も、どんどん変わっていくと思いますね。